

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 3 月 20日

事業所名 HappySmile

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である		4	2	生活介護との共有ス ペースがあり、活動を合 同するなどしている。	
	2 職員の配置数は適切である	2	4			配置基準は満たしているが、保育士を増員 していきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	5	1		段差改善やトイレ、浴槽 に手すりを設置してい る。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	3	3		月1で業務改善の ミーティングを開催 している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	5		1		毎年年度末にアンケートを実施できる点で の検討・改善に努めている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	4	1	1	ホームページで公開し 保護者にも周知しても らっている。	更新回数が少ないので今後は定期的に更 新できるよう改善していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	1	3	2		第三者評価の実施方法を検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	5	1			今年度は施設内外の研修が少なかった。次 年度の研修計画を検討している。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護 者のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	6			サービス等利用計画 との連動を意識して 作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	3	3			新えいぶるの活用を掲げたが十分ではな かった。
	11 活動プログラムの立案をチームで行ってい る	4	2			今年度は管理者がプログラムを作成してい たが、次年度からはチームで立案していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	2	4			月案・週案は立てているが今後は活動のレ パートリーを増やせるよう取り組んでいく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	2	4		休日や長期休暇に個別 やグループでの外出を 行っている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	5	1		ニーズ毎に担当(専門 職)を設け、個別・集団 を取り組んでいる。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	5	1		週毎で業務日誌を掲載 し、毎日サービス返し前 に確認を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	3	3		支援終了後に一日の振 り返りや保護者からの 伝達事項の確認を行っ ている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	3		モニタリングにつなげる 意識を持って記録を 行っている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイ サービス計画の見直しの必要性を判断して いる	6			利用者によってモニタ リング回数を変え計画の 見直しを図っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	4	2			管理職が基本活動を組んでいるが全職員 が周知できるよう改善に努める。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	5	1		優先して児発管もしくは ニーズによって専門職 が参画している。	参画できる職員を増やせるよう検討してい く。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	6			特に進路について は学校のコーディネーターや進路担 当の教員と密に連 絡を取っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	6			現在医ケア対象の利用 者はいないが、看護師 を配置し主治医との連 絡体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている					対象児が高校生なので連携はない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	6			毎年自事業所から就労 支援事業所へ移行す る際に情報提供を行っ ている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	3	2	1		現状では連携を図る機会は少ないが、今後 は行動障害の研修などを企画していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある		2	4		今年度は交流の機会はなかったが、次年度 は企画していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	2	3	1	管理者が委員として参 加し現場へ報告・提案を している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	3	3			個別での連絡を取り合っているが保護者会 などの機会がすくかった。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	1	4	1	今年度は保護者向け研 修を2回行った。次年度 も企画していく。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	6			契約時や実績負担 の変更時に説明を 行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	4	2		メールやLINEを活用し 相談に応じている。又必 要時に面談を実施して いる。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	1	3	2	保護者向け研修など で集う機会を設 けている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	6			苦情受付体制につ いて契約時に保護 者へ説明を行っ ている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	6			毎月HappySmileだ よりを発行し概要 を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			利用者の利益保護の 為情報管理に努めて いる。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	6			絵カードなどを活用し意 思を聞き取るよう工夫し ている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	3	2	1	行事がある際には近隣 住民へお知らせを行っ ている。	災害時に近隣住民と連携が取れる体制を整 える必要がある。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3		緊急時マニュアルや感染症対策は策定している。	防犯マニュアルはこれから策定していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1		年2回の消防訓練を実施している。	消防訓練以外の災害訓練も取り組む必要がある。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1			外部研修に派遣するなどしているが、今後は内部でも研修機会を設けていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	3			やむを得ない身体拘束の定義の理解や組織的決定は検討・改善する部分もある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			アレルギーに対しては看護師が主となり対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			ヒヤリハット事例があれば記録し翌日のミーティングで共有している。	